

だいじょうぶ
つながる
こそだて

だっこ通信

第55号 2025. 2月発行



ほっとかないで～ほっといて～

自分でやってみたい でも何かあったときは支えてほしい

ほっとかないで ➡ ➡ ➡ ほっといて

できないことがある だから近くで見ていてほしい



0歳



2歳頃（イヤイヤ期）



5歳頃



7歳頃



10歳頃（前思春期）

親

近くで見守る

少し離れて見守る

子どもが幼い頃は一人でできないことがたくさんあります。「ほっとかないで」の時期は親の助けが必要で、そばで見守ってくれる人の存在が欠かせません。居場所ができ、安心感がもてると今度は「ほっといて」の時期に入っていきます。未知の世界を知りたくなり、冒険をしたくなるのです。親も「直接的な世話をする存在」から、「少し離れて見守る存在」へと変わっていきます。子どもは「ほっとかないで～」と「ほっといて～」を混在させながら、しだいに自立へと向かっていきます。そう考えると、イヤイヤ期も反抗期も思春期も、子どもが自立する上では大切な時期であり、成長している証と言えます。



オンフーのつぶやき



親からすればまだまだ子どもだと思っていたのに、「パパやめて」「ママあっちへ行って」なんて子どもから言われるようになると、何とも寂しい気持ちになるよね。

でもそれって、「自分でやりたい」「できるようになったよ、すごいでしょ」というアピールなのかもしれないね。



「ほっとかないで」の時期があるからこそ、子どもは親から離れて前に踏み出せる。何かあったとしてもだいじょうぶ、自分には味方がいる！と実感できるから。不安になると戻るけど、エネルギーがチャージできるとまた前に進む。そんなことを繰り返しながら、少しずつ自信を付けて大人になっていくんだね。

発行者：さくら市生涯学習課（担当 s.suzuki）